

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300446		
法人名	医療法人社団 友志会		
事業所名	グループホーム 森の舎		
所在地	下都賀郡野木町南赤塚1218-8		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルワーク共同事務所内)
訪問調査日	平成23年3月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森の緑も多く、畑を作ったり花壇に花を咲かせ、動物を飼い自然と一体となった雰囲気大切にしている。その手入れ、草取り畑仕事はスタッフのみでは行わず、ボランティアの方が訪れ、「自然の畑」という気持ちを持っている。人との関わりを大切にしながら、他者と暮らしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東日本大震災では県内で被災者受け入れをした際の宿泊場所として提供され、県内で受け入れ先を探す拠点としても協力した。調査時には3棟で3名の被災者受け入れを実施している。近隣にある法人施設との協力体制のほか、3棟あることでの良さを活用しながら企画や行事に応じて合同で行ったり1棟ずつの活動をしたりと工夫している。夏祭りは自治会の行事と共同して実行委員会を設置しながら実施したり、ホームの草取りにも地域の方の協力が得られている。また、日々の生活では子どもの通学路となっており、飼育しているヤギを見に来たり、地域の方の散歩道として一息つけるようベンチも置かれている。町との協働する体制も確立されており、認知症ケアに対する発信の拠点としても役割りを果たしている。利用者の表情の豊かさが日々のケアの高さを感じさせるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作っている。スタッフは理念に沿ったサービスの提供に努めている。	「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いっしょのケア、ケアされるケア」の原則も設立時の職員で作成しており、入職時の研修や毎年1月に行う年間目標でも職員一人ひとりが振り返り、方向性を示すものとして共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に挨拶している。立ち話する事もある。夏祭り、菊祭り、文化祭に参加している。	ホームの目の前は子ども達の通学路になっており、散歩道にもなっている。ヤギを飼育しており、子どもや地域に方が気軽に立ち寄れる場所となっている。法人全体の夏祭りには地域の方と実行委員を立ち上げ盛大に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回、認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告して話し合い、意見をサービスの向上に活かしている。	参加者は町の福祉課、地域包括支援センター、区長、町議員、家族の代表が集まり、1年間の任期で3ホーム合同で行っている。地域で行われる行事の話し合いの機会となっており、ホームを応援する声が聞けるようになっている。	利用者の参加も進め、楽しみごとともに織り交ぜながら地域の方とのふれ合いの機会となるよう検討されている為、今後の実施が出来るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	避難訓練時、消防署に協力を得ている。認知症サポーターの協働など質の向上に努めている。	日頃からの関わりも密にとっており、町役場の職員研修の場としても協力をしており、認知症ケアへの理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準禁止の対象となる具体的な行為」を職員が正しく理解し、安全対策委員会や身体拘束廃止検討委員会にて、拘束しないケアに取り組んでいる。(鍵をかけないケアに取り組んでいる)	ホームで話し合われた事が委員会に挙げられ、その結果をホームに戻す体制が作られている。外出傾向のある方へのアセスメントも十分に行われており、見守りのケアを基本にしながら、地域の方の連絡もあり、地域全体で見守りの体制も築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対のない様努めている。研修に参加し、合同ミーティングで話し合っている。		

グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族または本人の希望に応じて、権利擁護制度を利用できる用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時と充分理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族の意見を聞き、行っている。不満・苦情などはその都度、職員に話していただいている。併設老健の相談員も対応している。家族会開催時に、意見を聞いている。	年3回家族会が実施されており、土曜日に設定することで8割方の参加率となっている。5月は3ホーム合同での利用者や職員の顔合わせの機会となっている。一緒に昼食を作りながら楽しんだり、1年間の思い出として写真をパワーポイントで紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、意見を出し合い反映させている。	毎日の申し送りの他に、月1回18時半頃より合同の会議と各棟での会議が行われており、日々の職員の思いが出せる機会となっている。利用者の状況によりシフトの変更も職員からの意見により行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、他の施設と同じように行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部、法人内研修に参加して、内容を合同ミーティングで報告し合っている。入職時に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協会で、ネットワークを作り勉強会、法人内で体験研修を行っていて、ミーティングで報告している。		

グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験やお試し入居も受け入れる用意がある。その際、本人自身から話を聴取したり、本人の観察を行い、要望・訴えを受け入れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が家族と面会し、希望や問題をよく聞き、家族の理解に努めている。また、随時ホームの見学も受け入れ、不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の統括マネージャーが、本人・家族と面会し希望や状況の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と共にレクリエーションや家事(料理の味付け、おやつ作り、食器・おぼん・テーブル拭き)など役割を持ち、支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事介助や片付けなど、行事のときや面会時に自然に行ってもらっている。病院受診も行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前住んでいた家の隣人や知人の面会も受け入れている。(馴染みの人が来ている)	家族が馴染みの理美容店に連れて行ったり、墓参りや外出の付き添いを行っている。利用者が家族に電話をしたいという希望にも応じており、家族には良い変化も積極的に連絡しながら関係を保つように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合いや、気持ちの支え合いが出来るよう支援している。喧嘩やトラブルについては職員が原因を把握し、当事者や他の入居者に不安や支障を感じさせない様になっている。		

グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終身ケアを行っているので、途中退去が現在ない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意見を尊重するよう努めている。家族に会いたがっている時、不穏時は家族に電話をし、声を聞き落ち着けるよう支援している。	不穏時も利用者の辛い気持ちを大切にしながら職員が受け止めている。少しの変化も見逃さない姿勢を職員が徹底しており、気付きも含めて言葉掛けや対応でうまくいった場合にはその都度共有して各職員が実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦や本人・家族の話を伺い、馴染みの暮らしに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランや介護記録等により、把握するよう努めている。(こまめに職員同士で常に情報交換している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成、更新にあたっては、毎月のミーティングなどで話し合いを行っており、本人や家族の意見を尊重した上で、作成している。	3ヶ月に1度の頻度でかかりつけ医や看護師、部長なども助言をしながら、実現可能な目標設定ができるような体制となっている。また、モニタリングも助言をして、より具体的な計画ができるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録は、細かく介護記録に残し、スタッフ間でも情報の共有に努めた上で、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、緊急にバルーン挿入の訪問看護を受け入れ、その時々本人、家族の要望に応じた支援をしている。		

グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションなどは、地域のボランティアの方に来ていただいたり、年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医へ対応を行っていて、本人・家族の希望を大切にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は365日体制を申し出ているとされており、往診も積極的に行われ、利用者の思いを聞いてくれる存在にもなっている。家族が付き添う場合には手紙を渡したり直接連絡をしながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設老健NS、訪問看護師と常に連絡を取り、入居者が適切な処理、助言を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、スタッフが出来るだけ顔を出し、病院関係者と情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じて行っている。希望に添えるよう全員で方針を共有している。主治医に相談し、支援に取り組んでいる。	看取りも行われており、家族が泊まれるような体制も確立している。また、家族には葛藤する思いを職員が受け止めており、段階に合わせて丁寧な説明を行っている。職員のシフトも状況に合わせて変更している。また、看取り後も管理者等で話し合いを行い、今後のケアについて検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や発生時に備えて、合同ミーティングを行っている。急変時の対応が出来るようにマニュアル通り、又状況に応じ実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に1度、避難訓練を行っており、併設施設老健職員もかけつけてくれる。地域と協働体制も築いている。	夜間想定も3棟合同で行われており、連絡網には運営推進会のメンバーも入って協力が得られるようになっている。今後は地震への対応の練習を実施する予定となっている。	職員からも地震時の対応について訓練をしたいという希望もあることから、早急に行えるような検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切に言葉かけや対応をしている。	利用者にとって聴き取りやすい方法を模索しており、方言やジェスチャーも交えて会話をしている。職員は自分のケアの振り返りも日常的に行っており、申し送りや情報共有も利用者に不快感を与えないよう声の大きさや伝達方法にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合わせて、納得して頂けるよう支援を実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	指定の美容室にお願いして定期的に理髪している。外出して、理髪している入居者もいる。化粧・髪染めをしている入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みや力を活かし、入居者と職員と一緒にご飯を食べている。料理の味付けのアドバイスをもらったり、食材切り、食器拭きなど楽しみながら行っている。	利用者によっては自分の仕事だと思っている方もおり、その気持ちを保障しながら参加する機会を作っている。3棟の献立を管理栄養士が作成しているが、利用者の好みにより味付け等での違いがあり、このことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後水分・食事摂取量(必要な方のみ)を記録している。又、尿量(必要な方のみ)記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施、入れ歯洗浄消毒、希望により訪問歯科診療を利用している。		

グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの力や排泄パターンを把握し声かけしたりトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、日々の状況を把握しながら利用者の表情や様子で推測もしながら個別での対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やレクリエーションなど、身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者、一人ひとりがゆっくり入浴できるよう、又入浴希望があったときは随時対応している。	週2～3回を基本としているが、希望で回数や時間に随時対応している。拒否感のある方へはトイレに行った後の流れで誘導したり時間を空けて誘導することもあるが、無理強いをしない事が前提として職員が共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動、希望に応じて足浴し、居室でラジオを聴いたり、テレビを観たりしている。職員は、夜間帯、入居者のペースに合わせて一緒に談話したり安心できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに処方箋がファイルされており職員は常に使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、箱作り、パズル、トランプ、ホール遊び、歌など一人ひとりの生活歴や力を活かして、楽しみや気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お楽しみ会で外食をしたり、買い物をかねてのドライブに出かける。店員さんは声を掛けてくれたり協力があり出かけられるように支援されている。	外に出ることを大切に考えながらケアをしており散歩も積極的に行っている。また、天候や気候に合わせて法人内の建物を散歩するような工夫も行っている。週2～3回程はドライブをしたり、2ヶ月に1度程度の外食も行っている。外出時には利用者同士の協力する姿も見られている。	地域の方からの協力も得られているが、今後は外出先や外出時でも地域の方の協力が得られるような体制作りの検討も期待したい。



グループホーム 森の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を所持していて、買い物時にお金を使えるようにしている。本人がお金の大切さを理解できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が、家族に電話をしたり、家族が手紙、ハガキを持ってきたりして、やり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強いときは、カーテンをする、外の明かりも適度に入り、ソファやついたて等を置き、居心地良く過ごせるよう支援している。	冬季は湿度を1日2回時間を決めて確認しており、湿度を保てるよう加湿器の他にベッドの下にバケツを置く工夫も行っている。夏季は、よしずや扇風機も活用して涼しい環境作りを心がけている。掃除もこまめに行っており清潔感があり、ソファ等も置き、広い空間も有効に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファでくつろいだり、談話室があり思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望により、テレビや仏壇などを持ち込んでいる。	職員の提案で各居室にコルクボードを吊るしており、利用者の作品や写真が飾れるようになっている。利用者の好きなようにレイアウトをしてもらっており、職員も個性が出るよう提案している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をつけ、日中は日差しが入り過ぎないようにカーテンなどで対応し、夜間帯は、暗すぎないように、照明(豆電球)、廊下の照明などで調整している。		